

# **JCATT ファイルフォーマット仕様書**

## **KCipher-2**

**2018 年 8 月**

**独立行政法人情報処理推進機構**

# 目次

1	はじめに	3
2	KCipher-2	4
2.1	パラメータファイル (*.par) . . . . .	4
2.2	リクエストファイル (*.req) . . . . .	5
2.3	Facts ファイル (*.fax) . . . . .	6
2.4	レスポンスファイル (*.rsp) . . . . .	7
2.5	結果ファイル (*.out) . . . . .	8

# 1 はじめに

暗号アルゴリズム実装試験ツール (以下 JCATT と略記する) が使用する各種ファイルのフォーマット規則を記述する。JCATT が使用するファイルには次のようなものがある。

## ファイルの種類

- パラメータファイル (\*.par)  
試験項目の設定を記述する。JCATT を用いて作成する。
- リクエストファイル (\*.req)  
暗号モジュール開発ベンダに対する要求を記述する。JCATT を用いて作成する。
- Facts ファイル (\*.fax)  
テストベクタを記述する。JCATT を用いて作成する。
- レスポンスファイル (\*.rsp)  
ベンダからの回答を記述する。リクエストファイルおよび本稿で指定するファイルフォーマットに基づいてベンダが作成する。
- 結果ファイル (\*.out)  
試験結果を記述する。JCATT を用いて作成する。

これらのファイルの名前は、次の規則に従ってつけること。

## ファイル名の規則

- 拡張子は、上記 ( ) 内に指定したものを使用すること。
- 拡張子以外の名前は、試験対象実装ごとに同じ名称をつけること。  
リクエストファイル (\*.req) と Facts ファイル (\*.fax) の生成時には、リクエストファイル (\*.req) と Facts ファイル (\*.fax) に対してパラメータファイル (\*.par) と同じ名称を JCATT が自動的につける。  
試験実行時には、同じ名称のレスポンスファイル (\*.rsp) と Facts ファイル (\*.fax) に対して試験が行われる。また、試験実行時は、結果ファイル (\*.out) に対して、Facts ファイル (\*.fax) と同じ名称を JCATT が自動的につける。

ファイルフォーマット詳細は次章以降に記述する。各ファイルに共通の規則は次の通りである。

## 共通規則

- JCATT 互換ファイルフォーマットの選択時, [    ] で囲まれた“タグ”の次の行に値を記述する。
- CAVS 準互換ファイルフォーマットの選択時, < タグ > = < 値 > の形式で 1 行で記述する。
- ヘッダ部分については各行について [< タグ > = < 値 >] の形式で 1 行で記述する。
- レスポンスファイルにおいては、【出力】と記述したタグが、試験対象実装が出力するデータを記述する箇所である。
- 半角英数字を用いること。
- タグおよび値は大文字小文字の区別をするので、大文字小文字を含めて正確に記述すること。ただし、数値を 16 進数で記述する場合は、大文字小文字は区別しない。
- 一文字目が # (半角) で始まるコメント行を自由に書き込むことができる。
- 平文、暗号文、鍵などのデータの区切り文字は改行 (CR+LF または LF) とする。
- 平文、暗号文、署名、鍵などのデータは 16 進表記とする。
- ビット数、個数などの数値は 10 進表記とする。
- ACSII コードを使用すること。
- 各行には必ず改行を入れること (最後のデータと EOF との間にも改行を入れること)。

## 2 KCipher-2

KCipher-2 の暗号アルゴリズム実装試験のためのファイルフォーマットを記述する．各表において，試験方法に関する以下の略語を使用する．

- KAT-Key: Variable Key Known Answer Test
- KAT-IV: Variable IV Known Answer Test
- KAT-Table: Table Look-Up Known Answer Test
- MCT: Monte Carlo Test

試験方法の詳細は，暗号アルゴリズム実装試験仕様書を参照のこと．

### 2.1 パラメータファイル (\*.par)

表1 KCipher-2 パラメータファイル

機能	タグ		内容	表記
擬似乱数生成機能	全体ヘッダ	AlgorithmName	KCipher-2	文字列
		NumberOfBlocksToGenerateInKATKey	KAT-Key の生成するブロック数	10 進
		NumberOfBlocksToGenerateInKATIV	KAT-IV の生成するブロック数	10 進
		NumberOfBlocksToGenerateInKATTable	KAT-Table の生成するブロック数	10 進
		NumberOfInnerLoopsInMCT	MCT の内側ループの回数	10 進
		NumberOfOuterLoopsInMCT	MCT の外側ループの回数	10 進
		NumberOfBlocksToGenerateInMCT	内側ループの中で生成する鍵系列のブロック数	10 進
		NumberOfBlocksToCompareInMCT	レスポンスファイルに記録する鍵系列のブロック数	10 進

2.2 リクエストファイル (\*.req)

表2: KCipher-2 リクエストファイル

機能	分類		タグ	内容	暗号アルゴリズム実装試験仕様書—共通鍵— 上の表記との対応	値の表記	例示
擬似乱数生成機能	全体ヘッダ		AlgorithmName	KCipher-2		文字列	[AlgorithmName = KCipher-2]
			NumberOfBlocksToGenerateInKATKey	KAT-Key の生成するブロック数		10 進表記	[NumberOfBlocksToGenerateInKATKey = 24]
			NumberOfBlocksToGenerateInKATIV	KAT-IV の生成するブロック数		10 進表記	[NumberOfBlocksToGenerateInKATIV = 24]
			NumberOfBlocksToGenerateInKATTable	KAT-Table の生成するブロック数		10 進表記	[NumberOfBlocksToGenerateInKATTable = 3500]
			NumberOfInnerLoopsInMCT	MCT の内側ループの回数	<i>innerloop</i>	10 進表記	[NumberOfInnerLoopsInMCT = 1000]
			NumberOfOuterLoopsInMCT	MCT の外側ループの回数	<i>outerloop</i>	10 進表記	[NumberOfOuterLoopsInMCT = 100]
			NumberOfBlocksToGenerateInMCT	内側ループの中で生成する鍵系列のブロック数	$N_b$	10 進表記	[NumberOfBlocksToGenerateInMCT = 10000]
			NumberOfBlocksToCompareInMCT	レスポンスファイルに記録する鍵系列のブロック数	$N_c$	10 進表記	[NumberOfBlocksToCompareInMCT = 24]
	KAT-KEY	KAT-KEY ヘッダ		InitialIVForKATKey	入力となるビット列 <i>IV</i>	16 進表記	InitialIVForKATKey = 00...00
		KAT-KEY 本体 *1	COUNT	0 以上 128 以下の整数		10 進表記	COUNT = 0
			InitialKeyForKATKey	入力となるビット列 <i>Key</i>		16 進表記	InitialKeyForKATKey = fffc ... 0000
			KeyStream	出力であるビット列		16 進表記	KeyStream = ?
	KAT-IV	KAT-IV ヘッダ		InitialKeyForKATIV	入力となるビット列 <i>Key</i>	16 進表記	InitialKeyForKATIV = 00...00
		KAT-IV 本体 *2	COUNT	0 以上 128 以下の整数		10 進表記	COUNT = 0
			InitialIVForKATIV	入力となるビット列 <i>IV</i>		16 進表記	InitialIVForKATIV = fffc ... 0000
			KeyStream	出力であるビット列		16 進表記	KeyStream = ?
	KAT-Table	KAT-Table ヘッダ		Output Length (bits)	出力となるビット列のビット長	10 進表記	[Output Length (bits) = 224000]
		KAT-Table 本体	COUNT	0		10 進表記	COUNT = 0
			InitialKeyForKATTable	入力となるビット列 <i>Key</i>		16 進表記	InitialKeyForKATTable = 0000 ... 0000
			InitialIVForKATTable	入力となるビット列 <i>IV</i>		16 進表記	InitialIVForKATTable = 0000 ... 0000
			KeyStream	出力であるビット列		16 進表記	KeyStream = ?
	MCT	MCT ヘッダ		InitialKeyForMCT	入力となるビット列 <i>Key</i>	16 進表記	InitialKeyForMCT = e47a ... dbc8
		MCT 本体 *3	InitialIVForMCT	入力となるビット列 <i>IV</i>	$IV$	16 進表記	InitialIVForMCT = 452c ... aeed
			COUNT	0 以上 <b>NumberOfOuterLoopsInMCT</b> 未満の整数	$j$	10 進表記	COUNT = 0
			KeyStream	出力であるビット列	$j = \langle \text{COUNT の値} \rangle$ に対応する $Y$	16 進表記	KeyStream = ?

\*1 129 個の各データの組を以下のように記述する。

```
COUNT = 0                                # COUNT = 0 のデータの組について記述する。
InitialKeyForKATKey = 0000 ... 0000      # COUNT = 0 に対応する Key を記述する。
KeyStream = ?                            # COUNT = 0 に対応する鍵系列のプレースホルダ。

COUNT = 1                                # COUNT = 1 のデータの組について記述する。
InitialKeyForKATKey = 8000 ... 0000      # COUNT = 1 に対応する Key を記述する。
KeyStream = ?                            # COUNT = 1 に対応する鍵系列のプレースホルダ。
:
:
COUNT = 128                              # COUNT = 128 のデータの組について記述する。
InitialKeyForKATKey = ffff ... ffff      # COUNT = 128 に対応する Key を記述する。
KeyStream = ?                            # COUNT = 128 に対応する鍵系列のプレースホルダ。
```

\*2 129 個の各データの組を以下のように記述する。

```
COUNT = 0                                # COUNT = 0 のデータの組について記述する。
InitialIVForKATIV = 0000 ... 0000        # COUNT = 0 に対応する IV を記述する。
KeyStream = ?                            # COUNT = 0 に対応する鍵系列のプレースホルダ。

COUNT = 1                                # COUNT = 1 のデータの組について記述する。
InitialIVForKATIV = 8000 ... 0000        # COUNT = 1 に対応する IV を記述する。
KeyStream = ?                            # COUNT = 1 に対応する鍵系列のプレースホルダ。
:
:
COUNT = 128                              # COUNT = 128 のデータの組について記述する。
InitialIVForKATIV = ffff ... ffff        # COUNT = 128 に対応する IV を記述する。
KeyStream = ?                            # COUNT = 128 に対応する鍵系列のプレースホルダ。
```

\*3 NumberOfOuterLoopsInMCT 個の各データの組を以下のように記述する。

```
COUNT = 0                                #  $j = 0$  のデータの組について記述する。
KeyStream = ?                            #  $j = 0$  に対応する鍵系列のプレースホルダ。

COUNT = 1                                #  $j = 1$  のデータの組について記述する。
KeyStream = ?                            #  $j = 1$  に対応する鍵系列のプレースホルダ。
:
:
COUNT =  $\langle \text{NumberOfOuterLoopsInMCT} - 1 \rangle$   #  $j = \langle \text{NumberOfOuterLoopsInMCT} - 1 \rangle$  のデータの組について記述する。
KeyStream = ?                            #  $j = \langle \text{NumberOfOuterLoopsInMCT} - 1 \rangle$  に対応する鍵系列のプレースホルダ。
```

2.3 Facts ファイル (\*.fax)

表3: KCipher-2 Facts ファイル

機能	分類		タグ	内容	暗号アルゴリズム実装試験仕様書—共通鍵— 上の表記との対応	値の表記	例示
擬似乱数生成機能	全体ヘッダ		AlgorithmName	KCipher-2		文字列	[AlgorithmName = KCipher-2]
			NumberOfBlocksToGenerateInKATKey	KAT-Key の生成するブロック数		10 進表記	[NumberOfBlocksToGenerateInKATKey = 24]
			NumberOfBlocksToGenerateInKATIV	KAT-IV の生成するブロック数		10 進表記	[NumberOfBlocksToGenerateInKATIV = 24]
			NumberOfBlocksToGenerateInKATTable	KAT-Table の生成するブロック数		10 進表記	[NumberOfBlocksToGenerateInKATTable = 3500]
			NumberOfInnerLoopsInMCT	MCT の内側ループの回数	<i>innerloop</i>	10 進表記	[NumberOfInnerLoopsInMCT = 1000]
			NumberOfOuterLoopsInMCT	MCT の外側ループの回数	<i>outerloop</i>	10 進表記	[NumberOfOuterLoopsInMCT = 100]
			NumberOfBlocksToGenerateInMCT	内側ループの中で生成する鍵系列のブロック数	$N_b$	10 進表記	[NumberOfBlocksToGenerateInMCT = 10000]
			NumberOfBlocksToCompareInMCT	レスポンスファイルに記録する鍵系列のブロック数	$N_c$	10 進表記	[NumberOfBlocksToCompareInMCT = 24]
	KAT-KEY	KAT-KEY ヘッダ		InitialIVForKATKey	入力となるビット列 <i>IV</i>	16 進表記	InitialIVForKATKey = 00...00
		KAT-KEY 本体 *1	COUNT	0 以上 128 以下の整数		10 進表記	COUNT = 0
			InitialKeyForKATKey	入力となるビット列 <i>Key</i>		16 進表記	InitialKeyForKATKey = fffc ... 0000
			KeyStream	出力であるビット列		16 進表記	KeyStream = f871 ... 3e30
	KAT-IV	KAT-IV ヘッダ		InitialKeyForKATIV	入力となるビット列 <i>Key</i>	16 進表記	InitialKeyForKATIV = 00...00
		KAT-IV 本体 *2	COUNT	0 以上 128 以下の整数		10 進表記	COUNT = 0
			InitialIVForKATIV	入力となるビット列 <i>IV</i>		16 進表記	InitialIVForKATIV = fffc ... 0000
			KeyStream	出力であるビット列		16 進表記	KeyStream = f871 ... 3e30
	KAT-Table	KAT-Table ヘッダ		Output Length (bits)	出力となるビット列のビット長	10 進表記	[Output Length (bits) = 224000]
		KAT-Table 本体	COUNT	0		10 進表記	COUNT = 0
			InitialKeyForKATTable	入力となるビット列 <i>Key</i>		16 進表記	InitialKeyForKATTable = 0000 ... 0000
			InitialIVForKATTable	入力となるビット列 <i>IV</i>		16 進表記	InitialIVForKATTable = 0000 ... 0000
			KeyStream	出力であるビット列		16 進表記	KeyStream = f871 ... bca0
	MCT	MCT ヘッダ		InitialKeyForMCT	入力となるビット列 <i>Key</i>	16 進表記	InitialKeyForMCT = e47a ... dbc8
		MCT 本体 *3	InitialIVForMCT	入力となるビット列 <i>IV</i>	$IV$	16 進表記	InitialIVForMCT = 452c ... aeed
			COUNT	0 以上 <b>NumberOfOuterLoopsInMCT</b> 未満の整数	$j$	10 進表記	COUNT = 0
			KeyStream	出力であるビット列	$j = \langle \text{COUNT の値} \rangle$ に対応する $Y$	16 進表記	KeyStream = 38f6 ... a4a6

\*1 129 個の各データの組を以下のように記述する.

```
COUNT = 0                                # COUNT = 0 のデータの組について記述する.
InitialKeyForKATKey = 0000 ... 0000      # COUNT = 0 に対応する Key を記述する.
KeyStream = f871 ... bca0                # COUNT = 0 に対応する鍵系列の期待値を記述する.

COUNT = 1                                # COUNT = 1 のデータの組について記述する.
InitialKeyForKATKey = 8000 ... 0000      # COUNT = 1 に対応する Key を記述する.
KeyStream = f871 ... bca0                # COUNT = 1 に対応する鍵系列の期待値を記述する.
:
COUNT = 128                              # COUNT = 128 のデータの組について記述する.
InitialKeyForKATKey = ffff ... ffff      # COUNT = 128 に対応する Key を記述する.
KeyStream = f871 ... bca0                # COUNT = 128 に対応する鍵系列の期待値を記述する.
```

\*2 129 個の各データの組を以下のように記述する.

```
COUNT = 0                                # COUNT = 0 のデータの組について記述する.
InitialIVForKATIV = 0000 ... 0000        # COUNT = 0 に対応する IV を記述する.
KeyStream = f871 ... bca0                # COUNT = 0 に対応する鍵系列の期待値を記述する.

COUNT = 1                                # COUNT = 1 のデータの組について記述する.
InitialIVForKATIV = 8000 ... 0000        # COUNT = 1 に対応する IV を記述する.
KeyStream = f871 ... bca0                # COUNT = 1 に対応する鍵系列の期待値を記述する.
:
COUNT = 128                              # COUNT = 128 のデータの組について記述する.
InitialIVForKATIV = ffff ... ffff        # COUNT = 128 に対応する IV を記述する.
KeyStream = f871 ... bca0                # COUNT = 128 に対応する鍵系列の期待値を記述する.
```

\*3 NumberOfOuterLoopsInMCT 個の各データの組を以下のように記述する.

```
COUNT = 0                                #  $j = 0$  のデータの組について記述する.
KeyStream = 38f6 ... a4a6                #  $j = 0$  に対応する鍵系列の期待値を記述する.

COUNT = 1                                #  $j = 1$  のデータの組について記述する.
KeyStream = 38f6 ... a4a6                #  $j = 1$  に対応する鍵系列の期待値を記述する.
:
COUNT =  $\langle \text{NumberOfOuterLoopsInMCT} - 1 \rangle$  #  $j = \langle \text{NumberOfOuterLoopsInMCT} - 1 \rangle$  のデータの組について記述する.
KeyStream = 38f6 ... a4a6                #  $j = \langle \text{NumberOfOuterLoopsInMCT} - 1 \rangle$  に対応する鍵系列の期待値を記述する.
```

2.4 レスポンスファイル (\*.rsp)

表4: KCipher-2 レスポンスファイル

機能	分類		タグ	内容	暗号アルゴリズム実装試験仕様書—共通鍵— 上の表記との対応	値の表記	例示
擬似乱数生成機能	全体ヘッダ		AlgorithmName	KCipher-2		文字列	[AlgorithmName = KCipher-2]
			NumberOfBlocksToGenerateInKATKey	KAT-Key の生成するブロック数		10 進表記	[NumberOfBlocksToGenerateInKATKey = 24]
			NumberOfBlocksToGenerateInKATIV	KAT-IV の生成するブロック数		10 進表記	[NumberOfBlocksToGenerateInKATIV = 24]
			NumberOfBlocksToGenerateInKATTable	KAT-Table の生成するブロック数		10 進表記	[NumberOfBlocksToGenerateInKATTable = 3500]
			NumberOfInnerLoopsInMCT	MCT の内側ループの回数	<i>innerloop</i>	10 進表記	[NumberOfInnerLoopsInMCT = 1000]
			NumberOfOuterLoopsInMCT	MCT の外側ループの回数	<i>outerloop</i>	10 進表記	[NumberOfOuterLoopsInMCT = 100]
			NumberOfBlocksToGenerateInMCT	内側ループの中で生成する鍵系列のブロック数	$N_b$	10 進表記	[NumberOfBlocksToGenerateInMCT = 10000]
			NumberOfBlocksToCompareInMCT	レスポンスファイルに記録する鍵系列のブロック数	$N_c$	10 進表記	[NumberOfBlocksToCompareInMCT = 24]
	KAT-KEY	KAT-KEY ヘッダ		InitialIVForKATKey	入力となるビット列 <i>IV</i>	16 進表記	InitialIVForKATKey = 00...00
		KAT-KEY 本体 *1	COUNT	0 以上 128 以下の整数		10 進表記	COUNT = 0
			InitialKeyForKATKey	入力となるビット列 <i>Key</i>		16 進表記	InitialKeyForKATKey = fffc ... 0000
			KeyStream	【出力】出力であるビット列		16 進表記	KeyStream = f871 ... 3e30
	KAT-IV	KAT-IV ヘッダ		InitialKeyForKATIV	入力となるビット列 <i>Key</i>	16 進表記	InitialKeyForKATIV = 00...00
		KAT-IV 本体 *2	COUNT	0 以上 128 以下の整数		10 進表記	COUNT = 0
			InitialIVForKATIV	入力となるビット列 <i>IV</i>		16 進表記	InitialIVForKATIV = fffc ... 0000
			KeyStream	【出力】出力であるビット列		16 進表記	KeyStream = f871 ... 3e30
	KAT-Table	KAT-Table ヘッダ		Output Length (bits)	出力となるビット列のビット長	10 進表記	[Output Length (bits) = 224000]
		KAT-Table 本体	COUNT	0		10 進表記	COUNT = 0
			InitialKeyForKATTable	入力となるビット列 <i>Key</i>		16 進表記	InitialKeyForKATTable = 0000 ... 0000
			InitialIVForKATTable	入力となるビット列 <i>IV</i>		16 進表記	InitialIVForKATTable = 0000 ... 0000
			KeyStream	【出力】出力であるビット列		16 進表記	KeyStream = f871 ... bca0
	MCT	MCT ヘッダ		InitialKeyForMCT	入力となるビット列 <i>Key</i>	16 進表記	InitialKeyForMCT = e47a ... dbc8
		MCT 本体 *3	InitialIVForMCT	入力となるビット列 <i>IV</i>	$IV$	16 進表記	InitialIVForMCT = 452c ... aeed
			COUNT	0 以上 <b>NumberOfOuterLoopsInMCT</b> 未満の整数	$j$	10 進表記	COUNT = 0
			KeyStream	【出力】出力であるビット列	$j = \langle \text{COUNT の値} \rangle$ に対応する $Y$	16 進表記	KeyStream = 38f6 ... a4a6

\*1 129 個の各データの組を以下のように記述する。

```
COUNT = 0                                # COUNT = 0 のデータの組について記述する。
InitialKeyForKATKey = 0000 ... 0000      # COUNT = 0 に対応する Key を記述する。
KeyStream = f871 ... bca0                # COUNT = 0 に対応する鍵系列。

COUNT = 1                                # COUNT = 1 のデータの組について記述する。
InitialKeyForKATKey = 8000 ... 0000      # COUNT = 1 に対応する Key を記述する。
KeyStream = f871 ... bca0                # COUNT = 1 に対応する鍵系列。
:
COUNT = 128                             # COUNT = 128 のデータの組について記述する。
InitialKeyForKATKey = ffff ... ffff      # COUNT = 128 に対応する Key を記述する。
KeyStream = f871 ... bca0                # COUNT = 128 に対応する鍵系列。
```

\*2 129 個の各データの組を以下のように記述する。

```
COUNT = 0                                # COUNT = 0 のデータの組について記述する。
InitialIVForKATIV = 0000 ... 0000        # COUNT = 0 に対応する IV を記述する。
KeyStream = f871 ... bca0                # COUNT = 0 に対応する鍵系列。

COUNT = 1                                # COUNT = 1 のデータの組について記述する。
InitialIVForKATIV = 8000 ... 0000        # COUNT = 1 に対応する IV を記述する。
KeyStream = f871 ... bca0                # COUNT = 1 に対応する鍵系列。
:
COUNT = 128                             # COUNT = 128 のデータの組について記述する。
InitialIVForKATIV = ffff ... ffff        # COUNT = 128 に対応する IV を記述する。
KeyStream = f871 ... bca0                # COUNT = 128 に対応する鍵系列。
```

\*3 NumberOfOuterLoopsInMCT 個の各データの組を以下のように記述する。

```
COUNT = 0                                #  $j = 0$  のデータの組について記述する。
KeyStream = 38f6 ... a4a6                #  $j = 0$  に対応する鍵系列。

COUNT = 1                                #  $j = 1$  のデータの組について記述する。
KeyStream = 38f6 ... a4a6                #  $j = 1$  に対応する鍵系列。
:
COUNT =  $\langle \text{NumberOfOuterLoopsInMCT} - 1 \rangle$  #  $j = \langle \text{NumberOfOuterLoopsInMCT} - 1 \rangle$  のデータの組について記述する。
KeyStream = 38f6 ... a4a6                #  $j = \langle \text{NumberOfOuterLoopsInMCT} - 1 \rangle$  に対応する鍵系列。
```

2.5 結果ファイル (\*.out)

表5: KCipher-2 結果ファイル

機能	分類		タグ	内容	値の表記	例示
擬似乱数生成機能	全体ヘッダ		AlgorithmName	KCipher-2	文字列	[AlgorithmName = KCipher-2]
			NumberOfBlocksToGenerateInKATKey	KAT-Key の生成するブロック数	10 進表記	[NumberOfBlocksToGenerateInKATKey = 24]
			NumberOfBlocksToGenerateInKATIV	KAT-IV の生成するブロック数	10 進表記	[NumberOfBlocksToGenerateInKATIV = 24]
			NumberOfBlocksToGenerateInKATTable	KAT-Table の生成するブロック数	10 進表記	[NumberOfBlocksToGenerateInKATTable = 3500]
			NumberOfInnerLoopsInMCT	MCT の内側ループの回数	10 進表記	[NumberOfInnerLoopsInMCT = 1000]
			NumberOfOuterLoopsInMCT	MCT の外側ループの回数	10 進表記	[NumberOfOuterLoopsInMCT = 100]
			NumberOfBlocksToGenerateInMCT	内側ループの中で生成する鍵系列のブロック数	10 進表記	[NumberOfBlocksToGenerateInMCT = 10000]
			NumberOfBlocksToCompareInMCT	レスポンスファイルに記録する鍵系列のブロック数	10 進表記	[NumberOfBlocksToCompareInMCT = 24]
	KAT-KEY	KAT-KEY ヘッダ	InitialIVForKATKey	入力となるビット列 IV	16 進表記	InitialIVForKATKey = 00...00
			〈 Results 〉	OK 又は NG	文字列	OK
	KAT-IV	KAT-IV ヘッダ	InitialKeyForKATIV	入力となるビット列 Key	16 進表記	InitialKeyForKATIV = 00...00
			〈 Results 〉	OK 又は NG	文字列	OK
	KAT-Table	KAT-Table ヘッダ	Output Length (bits)	出力となるビット列のビット長	10 進表記	[Output Length (bits) = 224000]
			〈 Results 〉	OK 又は NG	文字列	OK
	MCT	MCT ヘッダ	InitialKeyForMCT	入力となるビット列 Key	16 進表記	InitialKeyForMCT = e47a ... dbc8
			InitialIVForMCT	入力となるビット列 IV	16 進表記	InitialIVForMCT = 452c ... aeed
			〈 Results 〉	OK 又は NG	文字列	OK

注

- 試験合格の場合、〈 Results 〉に OK と表示される。
- 試験不合格の場合、〈 Results 〉に何らかの形式で NG と表示される。また、〈 Results 〉には、レスポンスファイル内の不合格となったデータが記述されている何番目 (COUNT, # 等の記号で番号を表す) のデータが不合格となったかが表示される。不合格となったデータが記述されているタグ名は、前記のレスポンスファイル仕様に【出力】と記述したタグである。ただし、【出力】と記述したタグが1つしかない場合、タグ名は省略することがある。